

イデックスオイルレポート ~For a month~

(株)新出光

【月次概況】

●第1週、10/4のWTI原油は、先週比6.2ドル高の74.38ドルとなった。イスラエルは1日に受けた大規模なミサイル攻撃への報復として、イランの主要施設や要人を狙う意向を示唆。バイデン米大統領は3日、イランの重要な収入源である石油関連施設を対象とする計画を巡りイスラエルと協議していることを認めた。一方、イランの最高指導者ハメネイ師は4日、首都テヘランで演説し、対イスラエルでの連帯強化を呼び掛けた。ロイター通信によると、イランの半国营通信社SNNは反撃されれば、イスラエルのエネルギー施設を標的に再攻撃すると報じ、戦闘激化が石油供給の混乱を招くと警戒感が一層強まった。

●第2週、10/11のWTI原油は、先週比1.18ドル高の75.56ドルとなった。ハリケーン「ミルトン」の影響で、石油関連のインフラに影響が及ぶとの見方が広がる中、3%超高となった。この日は急伸の反動から週末を前に利益確定や持ち高調整の売りが優勢となった。ただ、イスラエルによるイランの石油施設への報復攻撃の可能性がくすぶる中、エネルギー供給混乱を警戒した買いが引き続き入り、相場の下値は限定的。中国政府が今週末にも追加の景気刺激策を発表するとの観測が浮上する中、同国からのエネルギー需要見通しに期待も広がっている。

●第3週、10/18のWTI原油は、先週比6.34ドル安の69.22ドルとなった。パレスチナのイスラム組織ハマスのハリル・ハイヤ副政治局長は18日、ビデオ演説でハマスの最高指導者ヤヒヤ・シンワル氏の死亡を認め、イスラエルに対する徹底抗戦を表明。これを受け当初は、ハマス弱体化が早期のガザ停戦につながるとの期待が一部で浮上した。

●第4週、10/25のWTI原油は、先週比2.56ドル高の71.78ドルとなった。レバノン南部ハスバヤで25日早朝、ジャーナリストが滞在していたゲストハウスがイスラエル軍により攻撃され、少なくとも3人が死亡した。パレスチナ自治区ガザの停戦交渉の進展への期待感はあるものの、レバノンなど各地で散発的な戦闘が続く中、中東情勢の先行きは見通せない状況で、原油に買いが入りやすかった。

	10月平均	WTI原油	71.52ドル	前月比	2.28ドル	為替 1ドル	150.69円	前月差	6.14円
--	-------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
10/1~10/2	11.6	+2.0	+2.0
10/3~10/9	11.6	+0.5	+0.5
10/10~10/16	14.3	+2.5	+2.5
10/17~10/23	18.3	+3.5	+3.5
10/24~10/30	15.5	-3.0	-3.0
10/31~10/31	16.7	+0.5	+0.5

【単位:円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2024年7-9月C重油決定価格	100,600	102,600	100,600(メニュー)+2,000(プレミアム)
2024年10-12月C重油仮価格	88,570	90,570	88,570(メニュー)+2,000(プレミアム)	
2024年10-12月C重油決定価格				
決定価格7-9月比				

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適格C重油		A重油	
	2024年7-9月C重油決定価格	108,000	108,600	
2024年10-12月C重油仮価格	95,970			
2024年10-12月C重油決定価格				
決定価格7-9月比				

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	24/9	9桁速報	75,141	82.78	144.32	-7,372
	24/10	最終予測	70,672	77.30	145.36	-4,469
	24/11	展望	70,177	78.57	142.00	-495
	24/12	展望	69,299	78.14	141.00	-878

【次世代エネルギー】〈トヨタ、リュックで持ち運べる水素カートリッジを披露 企業向けモビリティショー開幕〉

日本自動車工業会(自工会)が主催する企業向け展示会「ジャパンモビリティショー・ビズウィーク2024」が10月15日、千葉市の幕張メッセで開幕した。脱炭素に向けて技術革新が進む自動車産業とスタートアップ(新興企業)や異業種との交流・商談を促進するイベントで、200以上の企業・団体が出展した。

「ヘルスケアや発電の事業者からビジネスマッチングで声がかかっている」。こう話すのは、リュックに入れて持ち運びできる「ポータブル水素カートリッジ」を国内で初披露したトヨタ自動車の担当者だ。

カートリッジは重さが約8・5キロで、充填できる水素の量は約4・7リットル。水素を取り出す専用装置などを使って水素ガスや電気を供給する。カートリッジ1本で、一般家庭の標準的な1日の消費電力の約3分の1を賄い、家庭用コンロなら2時間の連続使用に対応できるという。プロパンガスの代替などが想定されている。

また、トヨタは種類や劣化度が異なる中古の車載電池を混合利用できる独自の蓄電システムも紹介。担当者は実用化に向け「電池の効率的な交換・配送が課題になる」と話し、展示会を通じ、新たな協業の可能性に期待していた。

出典:産経新聞ニュース

<https://www.sankei.com/article/20241015-RYI4BTGFCVOHVFXB7HGTMU3RMI/>

【11月価格変動要因】

●需要:11/4-8には中国の全人代開催が予定されている。直近、中国から大規模な金融緩和策が矢継ぎ早に発表されており、次なる矢としてこれに連動した財政出動策が期待されている現況。一部報道では11/8に10兆元を超える財政パッケージを承認する事を検討するとも関係者筋の話として持ち上がっている。規模は中国GDPの8%以上に相当。

●供給:10月月初はイスラエルのレバノン攻撃により、イスラエル-新イラン民兵組織ヒズボラとの戦闘激化・イランとの対立先鋭化が意識され原油相場は上昇。イランからの攻撃に際しイスラエルはイランの石油生産施設を対象とした報復を示唆していたが、26日に実施された攻撃ではイランの軍事施設に標的を絞った限定的なものに留まり、過度な警戒感の後退し原油価格は下落となった。

●リスク資産・金融市場:米国株式は大統領選を控える中だが比較的堅調。背景には米企業決算が好調である点が指摘できる。一方で半導体株はやや売り込まれる場面もあり、オランダの半導体製造装置大手ASMLの決算から尾を引く半導体不況への警戒感が拭えない様子も窺える。

11/5の米大統領選は民主党・ハリス氏と共和党・トランプ氏の支持率はほぼ拮抗。ハリス氏はバイデン氏・トランプ氏両者を嫌うダブルヘイター等の支持を獲得しつつあるものの、バイデン政権下の移民政策等に対する批判は根強く、スイングステートではインフレに対して賃金上昇が追い付かず、選挙の趨勢を占うチョークポイントにおいてトランプ氏に対して劣勢にある。一方、トランプ氏は集会を開いても政策の具体性に欠け罵倒攻撃・悪罵に終始しがちだが、イーロン・マスク氏等大物の支援を獲得しており、選挙戦を有利に進めている。株式市場等ではトランプ氏当選シナリオを織り込む動きとなっているが、見通しはなお不透明な状況。

<1ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	81	77
Average	75	71
Low	70	66

<3ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	82	78
Average	76	72
Low	71	67

日付	国	11月経済指標カレンダー	日付	国	11月経済指標カレンダー
1	米国	10月非農業部門雇用者数変化	22	日本	10月全国消費者物価指数
1	米国	10月失業率	26	米国	10月新築住宅販売件数
1	米国	10月平均時給	26	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
1	米国	10月ISM製造業景況指数	27	米国	7-9月期四半期実質国内総生産
5	米国	10月ISM非製造業景況指数	27	米国	10月個人消費支出
7	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)、終了後政策金利発表	29	ユーロ	11月消費者物価指数
7	米国	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見			
13	米国	10月消費者物価指数			
14	ユーロ	7-9月期四半期域内総生産			
15	日本	7-9月期四半期実質国内総生産(GDP、速報値)			
15	米国	10月小売売上高			
19	ユーロ	10月消費者物価指数			